

ネイチャー・フォトサロン

身の回りのささやかな自然を撮る

部門 順位	ネイチャー・フォトサロン			得点			賞位数			
	氏名	都道府県	76回	77回	78回	合計	1席	2席	3席	佳作
1	會田 昭	埼玉	1	5		6	1			1
2	村松章一	愛知		3	3	6		2		
3	荒井宏厚	東京	5			5	1			
4	富澤信哉	奈良			5	5	1			
	見野則幸	北海道	3		1	4		1		1
	石川勝久	群馬	1		3	4		1		1
5	石田 進	新潟		1	3	4		1		1
	山崎 泰	栃木		3		3		1		
	高橋正勝	神奈川	3			3		1		
	中原良友	鳥取		3		3		1		
	蜂谷雅人	東京	3			3		1		
6	臼井 誠	北海道		2	1	3			1	1
	田畑寿彦	北海道	1	2		3			1	1
	林 繁造	北海道	2		1	3			1	1
	安田敏彦	北海道	1	2		3			1	1
	鈴木 満	三重	2		1	3			1	1
	高垣一夫	滋賀	2		1	3			1	1
	石塚佳子	北海道	1	1	1	3				3
【以下2点】 千葉逸子(北海道)、遠井信行(茨城)、村田邦之(茨城)、堀 和幸(群馬)、巻島芳明(群馬)、小堀佳弘(埼玉)、川井典彦(千葉)、小谷俊夫(兵庫)、池田和夫(長崎)、山岸真理(北海道)、竹田洋祐(奈良)、竹下邦茂(大阪)										
【以下1点】 木村克己(北海道)、熊谷眞吾(北海道)、日野昭雄(北海道)、藤田万理子(北海道)、藤島純七(宮城)、金井光寿(群馬)、樋口逸見(埼玉)、加藤清市(千葉)、横山健二(千葉)、尾地康正(東京)、野口美重子(東京)、野村晴夫(神奈川)、山田英雄(神奈川)、藤崎優子(新潟)、廣瀬久雄(愛知)、上田一美(三重)、藤島通行(奈良)、吉川秀徳(奈良)、阪田 昇(大阪)、山崎 猛(大阪)、衣川昌宏(兵庫)、松尾眞二(兵庫)、石原一夫(岡山)、植月すみ子(岡山)、小野淳一(岡山)、永澤悦穂(高知)										

チャレンジ・フォトサロン

気持ちの高まりを作品に込めよう

部門 順位	チャレンジ・フォトサロン			得点			賞位数			
	氏名	都道府県	52回	53回	54回	合計	特選	入選	佳作	
1	高岡伸太郎	長野	3	1	3	7	2		1	
2	大場 亘	埼玉		3	1	4	1		1	
3	佐藤純郎	岡山	3	1		4	1		1	
	関 和男	東京	1	2	1	4		1	2	
4	久保賢吾	東京	3			3	1			
	小松英雄	神奈川			3	3	1			
	斎藤頼璋	神奈川		3		3	1			
	柴田秋男	愛知			3	3	1			
	馬淵宏承	愛知		3		3	1			
	大槻誠章	北海道		1	2	3		1	1	
5	徳重隆志	埼玉	2	1		3		1	1	
	高橋のぶさち	千葉	2	1		3		1	1	
	池田道政	神奈川	1		2	3		1	1	
	城島里見	静岡	1	2		3		1	1	
	山元時子	石川		1	2	3		1	1	
	長尾 進	岡山	2		1	3		1	1	
	【以下2点】 村井嘉次(岩手)、岸 寛之(埼玉)、小舟敏美(埼玉)、土屋 強(埼玉)、雄長仁司(長野)、平田雅一(愛知)、清水義長(熊本)、和泉 豊(宮城)、中崎やよい(大阪)、生田正幸(広島)									
【以下1点】 津村 敬(北海道)、佐々木修子(青森)、阿部康男(栃木)、井口幸雄(埼玉)、白川治子(神奈川)、山口主法(長野)、濱島建治(愛知)、船橋紀雅(愛知)、溝渕孝司(三重)、高橋宗尊(京都)、都倉保信(大阪)、山根修一(鳥取)										

総評

小林紀晴

久しぶりにネイチャー部門の審査をやらせていただきました。コロナ禍の中であって、ネイチャーフォトはあまりその影響を受けていないことを実感し、うれしく思っています。こんな時こそ、身の回りのささやかな自然や、足元の地球の営みを感じられるものに目を向けるよい機会なのかもしれません。実際、そんな意識の元で撮られた作品を今回見ることができました。こんな時代だからこそ、より普遍で不変なものを意識し、「何を撮るべきか」を考えてみてはいかがでしょうか。



総評

三好和義

小さなプリントでありながら、スケールのある作品が多く集まりました。近くで1点ずつ手に取って拝見するので、緻密な描写に引き込まれ、大きなプリントを遠目で見るよりも細かなところに心が惹かれます。気持ちが高まったところでシャッターを切ることができれば、きっと良い作品が生まれます。次のステップを目指して頑張りましょう。

サロン・ド・ニッコール

試行錯誤の中で生まれた作品の数々

部門 順位	サロン・ド・ニッコール		得点						賞位数					
	氏名	都道府県	228回		229回		230回		合計	1席	2席	3席	佳作	
			C	M	C	M	C	M						
1	大村マサル	大阪			5		1	3	9	1	1		1	
2	室田あい	兵庫	2			5		1	8	1		1	1	
3	村上賢徳	奈良	1	2	2			3	8		1	2	1	
4	石田俊幸	東京	3		1			3	7		2		1	
5	外石富男	新潟	2	1		2	1	1	7			2	3	
6	水野伸治	奈良		1				5	6	1			1	
	山本待子	兵庫						5	1	6	1		1	
7	樋口良夫	愛媛			5			1	6	1			1	
	坪井嘉平	福島		3				3	6		2			
8	遠井信行	茨城	2		1			3	6		1	1	1	
	皆川春奈	愛媛			1			3	2	6	1	1	1	
	松木宣博	高知	1	3	2			6		1	1	1		
9	宮沢千春	長野		2	2			2	6				3	
10	柴田安雄	大阪	5						5	1				
11	山崎 猛	大阪	3			2			5		1	1		
12	柴田ただしげ	三重			2		2	1	5			2	1	
	宮本節夫	奈良		1	2		2		5			2	1	
	中原良友	鳥取		1		2		2	5			2	1	
13	藤島純七	宮城			1	1	2	1	5			1	3	
14	青木竹二郎	奈良				3	1		4		1		1	
	高田八寿子	奈良	3	1					4		1		1	
	吉川秀徳	奈良	3		1				4		1		1	
	吉永朋子	奈良	1		3				4		1		1	
	岩城 治	大阪	3					1	4		1		1	
	住吉 聡	徳島			3				4		1		1	
15	井藤光章	徳島	2				2		4			2		
16	森戸延行	千葉	1		1		2		4			1	2	
	伊藤邦美	長野			2		1	1	4			1	2	
	松尾秀夫	愛知		2		1	1		4			1	2	
	大橋 力	大阪		1		1		2	4			1	2	
	クワバラハク	大阪	1			1		2	4			1	2	
	板村清水	広島		1	2	1			4			1	2	
	永澤悦穂	高知	1		1		2		4			1	2	
	17	西野徳義	北海道		3				3			1		
	加藤和弘	三重			3			3			1			
	橋上 裕	三重					3		3		1			
小林謙一	大阪					3		3		1				
藤岡つよかず	大阪					3		3		1				
堀 英彦	大阪			3				3		1				
飯本近美	大阪			3				3		1				
山川照美	兵庫					3		3		1				
18	高橋 勤	神奈川	1					2	3			1	1	
	三浦征志浪	京都			2			1	3			1	1	
	東 輝	大阪	2				1		3			1	1	
	山本一朗	大阪	2		1				3			1	1	
	上原耕作	香川	1			2			3			1	1	
	河野正晴	徳島	2			1			3			1	1	
19	藤崎優子	新潟		1		1	1		3				3	
中澤 仁	愛知	1	1	1				3				3		
【以下2点】 林 繁造(北海道)、向井和栄(北海道)、鳥居秀行(山形)、大西 寛(群馬)、吉田信正(埼玉)、秋原由紀夫(神奈川)、八角宣一(長野)、佐藤泰三(愛知)、岩崎和生(三重)、井田久翁(富山)、森村弘文(奈良)、藤吉修忠(和歌山)、山中健次(和歌山)、阿茂瀬邦男(大阪)、旗谷賢次(大阪)、山中祥三郎(大阪)、土岐令子(大阪)、求磨川真喜(岡山)、楠友広(愛媛)														
【以下1点】 木村克己(北海道)、見野則幸(北海道)、神能俊行(北海道)、日野昭雄(北海道)、有田 勉(岩手)、長尾 清(茨城)、関矢俊夫(群馬)、伊藤 洋(埼玉)、海老澤正嗣(埼玉)、樋口逸見(埼玉)、中西克之(千葉)、田中利樹(東京)、蜂谷雅人(東京)、市川恵美(静岡)、杉浦啓允(愛知)、山本幸平(三重)、高垣一夫(滋賀)、竹田洋祐(奈良)、岩切光生(大阪)、上原弘士(大阪)、木下健一(大阪)、小池喜美枝(大阪)、高木賢治(大阪)、竹下邦茂(大阪)、永廻賢二(大阪)、東野勝彦(大阪)、三宅信男(大阪)、上田禎亮(兵庫)、梅津郁朗(兵庫)、神内信夫(兵庫)、山崎秀司(兵庫)、石原一夫(岡山)、植月すみ子(岡山)、中井 勝(岡山)、実本俊幸(岡山)、大西弘行(香川)、木田英之(徳島)、川口泰雄(熊本)														

得点表

年度賞について

- ニッコールクラブでは、各部門に年度賞を設けています。チャレンジ・フォトサロンの年度賞1位受賞者は、翌年度よりサロン・ド・ニッコール部門にご応募いただくことになります。
- 各部門で年度賞1位を受賞された方は、翌年度から受賞した部門へのご応募はご辞退いただきますが、1年後より再び応募可能となります。
- 年度賞の得点が同点の場合、入賞賞位が高い入賞者が優先されます。その他、詳細は巻末の「会報268号フォトコンテスト応募規定」の年度賞についての項目をご覧ください。

総評

カラーの部

ハナブサ・リュウ

自粛生活中に家で再発見した作品や、気をつけながら出かけて近所を巡る小さな旅。やっと開かれた地元祭りをソーシャルディスタンスでとらえたり、ストックしていた作品から状況をふまえて構成したり……といった試行錯誤を繰り返しながら、工夫を凝らして一生懸命に考えて表現している姿に出会いました。ずっと続いているコロナ禍にもかかわらず、皆さんの作品に対する強い情熱に感激しました。この情熱をもって、次回の作品も頑張ってください。

モノクロームの部

大西みつぐ

今回の入賞作品の中には、新しい感覚のモノクロ作品といえるものはいくつか目立ちました。象徴的な作品が、佳作の「落下」(クワバラハクさん)です。簡単に言えば「自分が良いと思ったものは良いのだ!」という主張が感じられるのです。2席の「恰好つけて」(村上賢徳さん)も、被写体自体に主張があります。それらは「個性」という言葉に換えてよいかもしれません。長い間言われている、作品の「月例調」を壊すには、ささやかな、あるいは堂々とした主張を写真に込めるべきでしょう。